



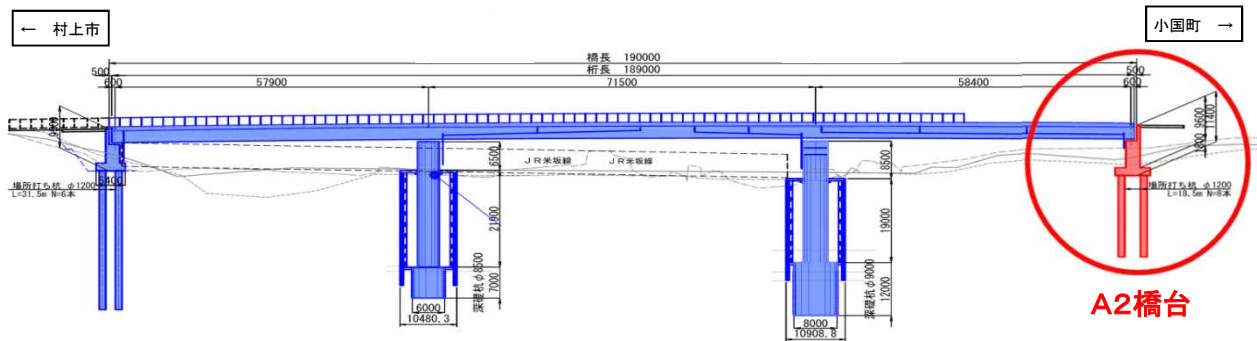
たかのす便り

【第12号】

国土交通省
羽越河川国道事務所

初夏の候、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
梅雨空のすっきりしない日が続きますが、稲の青葉は日に日に成長しているようです。
さて今回は、完成したA2橋台と工事中の2つの新技術工法をご紹介します。

「鷹ノ巣1号橋」のA2橋台が出来ました



大内測で昨年9月から工事を行っていたA2橋台は、5月に完成しました。
基礎杭は直径1.2mの鉄筋コンクリート製で、11本あります。杭の長さは18.5mで、5階建てビルの高さに相当します。この杭で地震の時も橋をしっかりと支えることができます。
また橋台本体は380m³のコンクリートと鉄筋が25t使われており、杭を含めた全体の重さは、約1,500tで、普通自動車の約1,000台分にもなります。



① 杭の掘削作業 (H27年10月)



② 杭の出来上がり (H27年12月)



③ 鉄筋の組み立て (H28年1月)



④ コンクリート施工 (H28年4月)

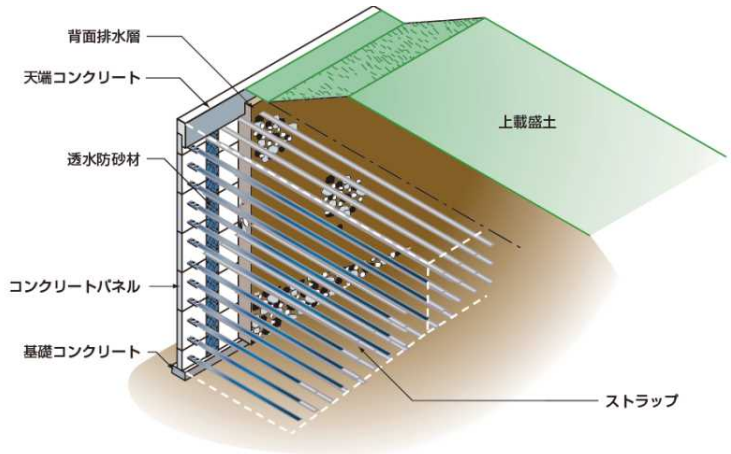


新技術

垂直な壁をつくってます(補強土壁工法)

大内澗の現場では「テールアルメ」という補強土壁工法で垂直な壁をつくっています。この工法は、盛土の中に帯状の補強材を埋め込み、補強材と土との摩擦効果によって盛土の安定性や強度を高め、垂直な土の壁をつくるものです。

補強材にはポリエステル（PET）とポリエチレンでできた「ジオストラップ」を使用しています。従来の鋼製板と同等の強度と耐久性を持ちながら、従来の板より軽いため、施工が楽になりました。



*ジオストラップ（GSシステム）はNETIS登録の新技術（CG-130014-A）です。

【新技術について】

「NETIS」（ネティス）とは、民間で開発された**有用な新技術の活用促進**を図るため、情報共有や提供を行うシステムです。国土交通省はNETISを通じ、新技術の事前審査、現場での活用効果調査、事後評価等を行い公共工事の品質確保や良質な社会資本整備を目指しています。

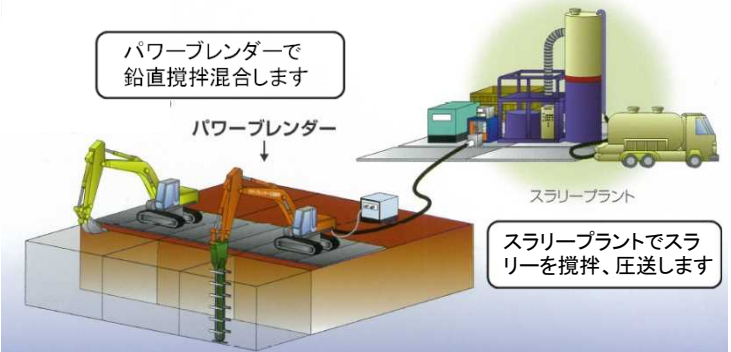


新技術

軟弱な地盤を強くしてます(地盤改良工法)

軟弱な地盤の上に高く盛土をすると、地震時などに盛土が不安定になります。そのため地中の軟弱な土砂を改良し、硬く安定した地盤にするのが地盤改良工法です。

大内澗では「パワーブレンダー工法」で地盤改良を行っています。この工法は、セメント系改良材と水を混ぜたスラリーを、トレンチャー式攪拌混合機の先端から噴出させ、地盤土砂とスラリーを鉛直方向に混合攪拌する工法です。スラリーのセメント分が固まることで地盤土砂が硬くなり改良されます。



*パワーブレンダー工法もNETIS登録の新技術（CB-980012-V）です。

発行およびお問い合わせ先



国土交通省 北陸地方整備局
羽越河川国道事務所

〒959-3196 新潟県村上市藤沢27-1
電話：0254-62-3211(代表)
担当：伊藤（鷹ノ巣道路整備推進プロジェクトチームリーダー）
URL⇒<http://www.hrr.mlit.go.jp/uetsu/>

